

オレンジカフェ静岡

3 / 17 2時～4時

コーヒー・紅茶
ハーフティ
お菓子
各100円



植田 稔さん

静岡大学卒業。静岡商工会で地域産業の経営相談に従事。地域の活性化や助け合い、静岡産業遺産の保存等に活躍されています。

(2面に続く)

今月のお話

日本最初の西洋額縁職人 嶽陽「長尾建吉」伝

植田 稔さん

NPO法人 助け合いネット静岡
産業遺産を保存する会スタッフ

長尾建吉は、万延元年（1860）静岡市研屋町の刀研ぎ師の家に生まれました。

15歳で東京日本橋の古美術商齊藤商店に奉公に出て、わずか19歳で店を代表してパリの「万国博覧会」へ出張して販売に当たりました。翌年、豪州のシドニー博、続いて米国市場開拓へと気宇も壮大、視野を世界に広げました。

訪欧時の親友、洋画家の山本芳翠の勧めで、西洋画の額縁を研究開発をして、明治の中ごろ日本最初の「西洋額縁専門士」となりました。当時の日本の西洋画は曙期で

東京美術学校（現東京芸大）の西洋画科も開設されたばかりで、パリから黒田清輝が帰国して教授に就任し、建吉はその知遇を得ることができました。

黒田によって組織された「白馬会」に集った画家や画学生は画の需要も少なく貧乏そのものでしたが、建吉は家に下宿させたり、出世払いで額縁を提供したり、実に良く生活の面倒をみました。

和田英作、岡田三郎助、藤島武二、和田三造、白瀧幾之介、北蓮藏などその後の日本を代表する画家たちが建吉の世話になっており、静岡市大鋸町の玄忠寺にある建吉の「顕彰碑」には、功績を讃えるとともに、感謝の意を伝えています。建吉の顔を黒田清輝がデッサンし、裏に梅原龍三郎や藤田嗣治らも名を連ねています。建吉は号を嶽陽といい、昭和13年に亡くなり、墓は東京芝高輪の泉岳寺で親友山本芳翠と並んで眠っています。

今回は「顕彰碑」と、建吉の人となりエピソードを交えて紹介します。

認知症について(2)

脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血など何らかの原因により脳の血管の血行が阻害されると、運動麻痺などの様々な症状が表れます。そうした症状の一つが脳血管性認知症です。脳血管障害の治療の進歩で死亡率が減り、脳血管性認知症も減少傾向にあります。ですが、それでも認知症全体の約20%を占めます。その特徴は、できることと、できないことの差が大きいこと、一日のうちの症状の変化が大きいこと、本人に「できること」と「できないこと」の自覚があるため、悲しみや歯がゆい思いをして、うつ状態になる場合があります。脳血管障害の再発と転倒などの事故防止に努めながらリハビリテーションに取り組むことができれば、機能の回復と維持が可能です。

恒例の 上藤美紀代による 声のワークショップ

元 SBS アナウンサー上藤美紀代さんと一緒に、声と喉を鍛えるトレーニングをしましょう！

合唱

望月保夫さんの指揮とアコーディオン伴奏で、歌いましょう！

- ・春の小川
- ・さくらさくら
- ・おぼろ月夜
- ・花(春のうららの)

植田稔さんのプロフィール

NPO助け合いネット静岡のある番町地区は、かつて職人の街でした。特産の下駄やサンダル、鏡台や家具、漆器や竹器がこの町から生み出されました。建吉の家も明治の廃刀令で漆器業に転業し、刀の鞘の「変わり塗」を漆器に応用して、静岡特産の「変わり塗漆器」を考案して輸出貿易に貢献しました。私たちは、明治・大正・昭和の時代が積み重ねられ、今は忘れ去られようとしている地域の歴史を掘り起し、次世代へつなげていくことをNPOの柱の一つとしています。(記事 植田稔さん)

今月の相談担当者

三月は伝馬町横内地域包括支援センターから福興知恵さん(保健師・看護師・助産師)がいらして相談にのってくださいます。

予告 四月のミニ講話

高齢者施設のあれこれ

お話 小作徳光さん

伝馬町横内地域包括支援センター所長
高齢者の施設はいろいろあるけどどんな違いがあるの？

要件は？費用は？そんな疑問にお答えします。



会場 静岡市葵区城東町 34-14

城東コミュニティプラザ HapiSpo

会場提供

社会福祉法人 静和会

主催 NPO 法人

ヒューマン・ケア支援機構

TEL: 090-5620-6070

HP: <http://npo-humancare.jp>

※駐車場有ります



バスでお越しの場合、静岡駅北口から、5, 6番のすべてのバスで、横内町静岡学園前下車。徒歩5分。バス停に案内人がいます。